



平成会  
濱崎 清志 議員

### 問一 観光行政について

Q 観光行政をどのように進めていくか。

A 本市特有の資源を最大限に活用し、情報発信やPRを積極的に行う。また、広域観光ルートづくりに努め、交流人口の拡大を図りたい。

Q 民間企業などが連携し、自治体観光プロモーションをワンストップで行う事業がある。加入を検討してみているか。

A 大変興味がある。前向きに調査したい。

Q 島原城などの観光施設をシェアリングとして貸し出しをしているようだが、使用料などの条例改正が必要ではないのか。

A 条例に基づくことが大前提だが、前例がない新たな取り組みは、議会とも相談をしながら、思い切つてやる時はやるという姿勢で、進めていきたい。今後、活用事例を分析し、条例との関係も含め整備していく。

Q 公共施設のシェアリングが可能であれば他の施設も対象にしていくべきでは。

A 今回は観光ビューローでの取り組みだが、今後進めていきたい。

Q 観光ビューローと市の役割分担を明確にすべきでは。

A 観光行政において完全に分けるのは難しい。相談できる相互関係も必要。

### 問一 行政関係について

Q 公務の信頼を高めるために、倫理規定を設けているか。

A 定めていない。機会あるごとに指導していく。

Q 公共施設等総合管理計画について、実施はいつからなのか。

A 本年度は個別施設計画策定に向けて取り組んでいる。

Q 市職員の給与について、管理職と一般職での逆転現象の解消に対する考えは。

A 人事評価制度を活用し、めり張りのある給与上の処遇等につなげていきたい。

【その他の質問項目】  
◇地域公共交通について



実践クラブ  
北浦 守金 議員

### 問一 林業について

Q 本市での林業に対する取り組み状況は。

A 市有林においては国や県の補助事業を活用し、間伐材の施業を行っている。平成28年度は約9ヘクタールの利用間伐を実施した。

Q 三会中学校林などを見ると、山が荒れ立木がかわいそうな状況だが、どのような管理状況なのか。

A 国との分収林となっており、現在は年1回、育友会と学校で育成等の確認作業などを行っている。

Q 本市の森林面積は。

A 市面積の43%が森林で3585ヘクタール。内訳は国有林73%、県有林3%、市有林4%、私有林20%である。

Q 他自治体では林業が復活しているような状況も聞く。島原半島全体で捉えれば、産業としての可能性もあるのではないか。

A 雲仙森林組合があるが、運営面や人材確保などの課題を抱えている。

Q 定住人口の確保には一次産業が大事。産業としての林業復活のために最大限の努力をしてほしい。長崎森林管理署と結んでいる「森林に関する協定」をうまく利用できないか。

A 関係省庁にも本市の地域性を生かした方法や協定の観点からも尋ねてみたい。

### 問一 公共工事における設計業務について

Q 各課での状況は。

A 大規模な施設、特殊な工事等の場合、専門知識をもつコンサルタンに業務委託をしている。

Q 地域の方が日々利用する海岸工事の設計業務を委託する場合、現場で利用者の声を確認し、設計に反映してもらいたいと思うが。

A 説明会を開いて要望を確認し対策を講じたが、着工後に出てくる要望については難しい部分もある。できるだけ現状に近い形になるよう県などに相談している。